

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371100849		
法人名	株式会社 エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地		
自己評価作成日	令和2年9月7日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年10月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

野菜やお米は自家栽培にてご提供させてもらい、安心・安全を心がけています。ときにはオクラやさつまいもなど、収穫のお手伝いもしていただいております。現在はコロナウイルス感染症対策にて自由に外食やお出かけが出来ていませんが、できるだけ気分転換をしていただけるように現在も散歩は日課にしています。毎月1・15日の神社へのお参りも実行中です。理念でもあります、笑顔の絶えない楽しい暮らしを目指して日々利用者様のお手伝いをさせてもらっています。認知症になっても、できることを手伝ってもらいながら、馴染みつつある利用者様の仲間たちと本当の家族のように安心して暮らしていけたらと思ひ、日々お仕事もさせてもらっています。お出かけに力を入れていたので、現在の状況は本当に残念ですが、屋内でも楽しめることを提案して利用者様に楽しんでいただけるように努力していきたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者のなごやかで生き生きとした笑顔が印象的な施設である。利用者に敷地外の畑へ歩いてでかけ、野菜を収穫、持ち帰り調理し食べるという一連の流れの中で季節感を感じながら運動したり、食の楽しみを得るといった体験をしてもらう、あるいは好みのレクを選んでやってもらう、など、新型コロナウイルス感染症予防には徹しつつも、共同生活を楽しみながらおこなってもらっている。職員同士のコミュニケーションがよくとられ、チームワークで支援に臨む姿勢が利用者の笑顔につながっているのだとわかる。地域との繋がりがもできており、コロナ禍が収束して外出も来訪も自由になればボランティアの訪問や遠足などでさらに笑顔が増すことが期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活をする 笑顔の絶えない楽しい暮らし 地域に根ざした暮らしを理念とし玄関や各フロアに掲げて、職員一同、意識を持ちお仕事をさせてもらっています	理念は玄関やフロア入口などに掲示されており、月一度のミーティングなどで内容に沿った支援がなされているか、振り返ることがある。職員も理念を理解し、利用者それぞれがその人らしく生活できるように節度はもちながら家族のように接し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方には消防訓練や運営推進委員会に参加していただき、日々の散歩を通じて地域の方との交流を図っています	自治会に加入し、回覧板を回してもらっている。地域の情報は推進会議などの場を通して民生委員から知らせてもらっている。散歩などで近隣住民と面識を持ち、施設の存在を周知してもらっている。ボランティアの訪問も多いが、現在はコロナ禍にあって遠慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が迷われている時はお声をかけをし、助けられるように努めています また逆に地域の方に私どもが認知症の方をお連れしていると大変ねと声をかけて下さることもあります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況や問題等を相談し、サービスの向上に努めています また地域の方より情報をいただき、勉強させてもらっています。2月以降は新型コロナウイルス感染症予防のため会議は実施しておりません	運営推進会議は二カ月に一度開催されていたが、コロナ禍にあっては施設側での取り組みを手紙や電話で参加メンバーに伝えている。通常であれば防災訓練の場としたり、地域情報を得、施設の近況報告をするなど、会議を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは相談させてもらい、助けてもらっています また市町村の研修等には極力参加させていただき、勉強させてもらっています	介護制度や保険の変更などでわからないことがあればすぐに区の窓口へ相談している。コロナ禍においても施設としての対応について相談した。また市の主催する研修には参加している。介護フェアの見学や、事業所連絡会の参加もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠のないケアを目指し、玄関、フロアの一部は職員間で相談し、今年より解錠させてもらっています また、2か月に一度、身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに努めております	マニュアルがあり、年に一度、勉強会を開き、また二カ月ごとに話し合いを行っている。利用者の状況状態に応じ、安全を考慮し、現在は玄関やフロア入口を施錠している。状態が落ちたら職員が話し合い、施錠をやめることにしている。研修で刻み食の提供の仕方についてやり方を間違くと虐待にあたる学び、他の職員と話し合い共有した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報共有に努めて、日頃より利用者様の様子や傷などを注意してみるように心がけております マニュアルをいつでも見られるところに置いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや研修会において学ぶ機会を設けています また身寄りのない方は身元引き受けの機関を紹介し、支援させていただいています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時にひととおりご説明させていただき、理解していただいております また改定時には文書にて同意をいただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、面会時に様子を伺い運営に反映できるように努めています	意見箱はあるが、投函されたことはない。面会時に直接家族と話し意見や要望を聞くようにしている。現在は面会に制限があり、その分、電話及びメール、LINEなどで施設と家族とのやり取りを行っており、もっと畑を活用してもらいたい、という要望をもらい、庭に畑を取り入れる計画をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話等により、意見を聞けるように心がけています また外部の専門機関に相談し、反映できるように努めています	職員は管理者に支援における意見などを話しやすい環境にある。玄関の施錠についても、理由を伝えて開錠は難しいのではと話し合ってくる。待遇についても意見を伝えやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の実績や努力により反映できるように心がけており、職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握できるよう、努めたい。できたら研修参加を促したいが現在のところは行ってはならず、介護の本をフロアにおいてみて個々に学習を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会に参加してもらい、勉強会や親睦会を通じて同業者の交流を定期的に行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接事前にお会いし、困っていることや要望を伺っています また特にサービス導入時は信頼関係がとれるまでいつも以上に注意し、対応させていただきます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも事前にお会いし、困っていることや要望を伺い、安心していただけるように、信頼していただけるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって一番必要なサービスを見極められるように努めており、場合によっては、違うサービスもご紹介させてもらっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという立場ではなく、できることやできないことを互いに助け合い、感謝や敬意を表し、よりよい関係を築いていけるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にもらいながら、たまには周りで一緒に会話等に入らせていただき、支援させてもらっています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切に馴染みの方がいつでも来ていただけるような、環境づくりに努めています	普段であれば、墓参や、外食、馴染みの場所への遠足などを行っている。また年賀状や手紙のやりとりは仲介している。思い出の場所や実家へ行きたいという思いがあれば、家族に思いを伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見守りながら、時には間に入りながら、お互いにより良い間柄になれるように努めさせてもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても病院等にいらっしゃる場合は会いに行き、ご本人が孤立されないように努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活のため、伺えない場合もありますが、できるだけ、ご本人の意向に添えるように心がけています また本人本位に考えられるように努めています	入所前の生活歴等は本人や家族からしっかり聞き取り、意向の把握に繋げている。普段からコミュニケーションを頻回に図り、会話や表情等でその時々を思いを汲み取っている。職員は話やすい雰囲気を作り、意向を引き出しよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の利用者様との会話やご家族に伺い今までの経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報共有に努め、小さいことも見逃さず共有できるように努めています また色々試しながらご本人の現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議にて個々の利用者様のケアについて話し合っています またご家族にも近況をお話しし、意見等を伺いケアプランに反映させてもらっています	計画書作成時は利用者や家族の意向に添って作成し、3か月毎に見直し現況に合った計画書となっている。意向の変化や身体状態の変化があれば都度見直しもやっている。計画書更新時に家族の同意をもらっている。医療面では看護師に相談しチームとして支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも普段より申し送りやノートにて情報共有し、日々のケアに役立っている また見直しが必要な場合は常時見直しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族ひとり一人のニーズに応えられるよう、努めています また言いやすい環境づくりに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の趣味を大切にしていづまでも続けていただけるよう、いづまでも自信を持っていただけるようにご家族と協力して安心して楽しく暮らしていただけるような支援に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医等伺い必要なときはかかりつけ医にかかっていたできるように支援しています	入居時にホーム協力医に移行しているが、持病等の専門医や皮膚科、眼科、歯科等は個別に通院している。家族対応ができない場合等は受診体制を整え、受診結果や薬の処方等は主治医や専門医、家族との連携を図っている。協力医は二週間毎の訪問で診察を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に来てもらい、フロア毎にノートを作り、日々の利用者様の様子を相談していますその後必要あれば処置等を行っています。また職員にも看護師がおり、問題があれば相談しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にお見舞いやカンファレンスに参加してその後の情報共有に努めています また色々相談にのってもらい、より良い関係づくりに努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては日々職員間にて話し合っています。早い段階ではご家族には相談していませんが、必要な時期に相談させてもらっています	重度化や看取りの際は利用者や家族の意向を最優先し、主治医や看護師、家族と話し合いを行い支援の方針を決めている。利用者や家族の希望があれば看取りを行う体制を整えている。急変時は主治医や看護師と相談し、状態に即した支援を行っている。緊急時マニュアルを整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて学ぶ機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施しています。うち一回は地域の方や消防の方にもご協力いただき、普段より信頼関係が築けるように努めています	夜間想定火災、地震、水害の避難訓練を実施している。毎年10月に推進会議時に災害訓練を行うが今年は見送っている。訓練実施後は職員間で話し合い、防災意識を高め、改善に努めている。備蓄は三日分の水と食料を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、冗談が言える方には言ってみたり、律儀な方には崩さず丁寧な言葉を心がける等、基本的には一緒ですが、個別に言葉かけや対応を変えこともあります	個人情報に関わる取り扱いや話は、利用者の前では慎む様にして注意している。利用者各々に信頼関係を深め、心地の良い話し方や対応に心掛けている。排泄失敗時は、羞恥心に配慮して接する様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境づくりに努めています また意思を伝えにくい方には答えやすい質問をするなど、なるべく自己決定できるように働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にとって居心地のよい空間で暮らせるように職員の都合ではなく、利用者様の都合で暮らしていただけるようにお手伝いさせていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が気に入って下さるような身だしなみの援助を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の野菜を中心に利用者様が喜んでいただけるメニューを利用者様やご家族に伺ったりして、メニューや外食に取り入れています お手伝いも積極的に手伝っていただいています	献立、調理、食材の調達は施設が行い、利用者の希望を献立やおやつづくりに反映している。畑で採れた季節の野菜が食卓に並び、食の安全や関心に繋げている。簡単な調理や配下膳、片付け等は利用者が協力し合い行っている。外食ができなくなったが、テイクアウトを利用する等、利用者の希望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量は毎日記録し、水分摂取量も必要があるときは記録しています 個々に色々な食事形態や嗜好にもなるべく対応させていただいており、摂取量が少ない方には色々な工夫で召し上がっていただいております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的にはご本人で口腔ケアをしていただいております できないところをお手伝いさせていただいております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄していただけるよう支援させてもらっています	排泄チェック表を活用し、利用者個人の排泄リズムに合わせて声掛けや誘導している。夜間帯も同様に、個人のパターンに合わせて誘導やポータブルの使用や、定時オムツ交換をする等支援している。失禁が減ったり、紙パンツから布パンツへと自立に向けて支援もできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてNHKのテレビ体操やラジオ体操等を取り入れています また散歩も真夏、真冬を避けそれ以外は散歩をさせてもらっており、筋力の維持に努めています 個別にも訓練を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな方にはタイミングや声かけ等を工夫して入っていただいております またお好きな方は時間に余裕があるときには優先して入ってもらっています	菖蒲湯やゆず湯等、入浴を楽しめる様取り組んでいる。必ず職員が付き添い、安全面に配慮している。一日置きに入浴し、体調不良時に清拭や足浴を行っている。入浴を拒否される際は声掛けに工夫して、気持ちに寄り添い無理強くない入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり体調や気分によってお好きなように自由に生活していただいております またメリハリのある生活も大切にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の利用者様の薬について共有できるよう心がけています また常日頃より利用者様の変化には注意し観察させてもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしてもらえるように努めています また、散歩や外食等で気分転換を図り、笑顔の絶えない楽しい暮らしを目指しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い方にはご家族の協力も得て、外泊をしていただいたり、外出もコロナ前までは行っていました	午前の散歩や近隣の畑へ行く事が日課となっている。午後の空いた時間にも希望者には散歩できるよう努めている。月2回近隣神社への参拝も恒例である。外食、外出レクや利用者の希望の外出は、コロナの影響で控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族と相談させてもらい、決めさせてもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	代筆やポストへの投函を支援しています また電話の支援もさせてもらっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるよう、季節に合わせた貼り絵や作品を作ってもらっています また一日に何回かは窓をあけ、その日の気候を感じていただけるようにしています 庭にはハナミズキや金木犀等季節の木々が植えられています	フロア毎にソファやダイニングテーブルの配置を変え、利用者目線で生活同線が確保され広々と明るい共用空間となっている。利用者が製作した季節の作品やイベントの写真を飾り、和やかな雰囲気を出している。掃除が行き届き清潔感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこの空間や3人用のソファ等それぞれに過ごしていただけるように工夫させてもらっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご説明をして使い慣れた物を持ってきていただいています また心地よい清潔な空間が保てるように心がけています	家具類や仏壇等、馴染みの物を持ち込み、懐かしい写真や作品などを飾り、利用者が落ち着ける居室となっている。喚起や空調、温度管理は職員が行い、掃除は利用者と一緒にやっている。衛生管理が行き届き、過ごしやすい空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには大きく文字を書いたり、好きな物を貼ったりして分かり易くなるよう努めています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100849		
法人名	株式会社 エヌエス		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地		
自己評価作成日	令和2年9月7日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野菜やお米は自家栽培にてご提供させてもらい、安心・安全を心がけています。ときにはオクラやさつまいもなど、収穫のお手伝いもしていただいております。現在はコロナウイルス感染症対策にて自由に外食やお出かけが出来ていませんが、できるだけ気分転換をしていただけるように現在も散歩は日課にしています。毎月1・15日の神社へのお参りも実行中です。理念でもあります、笑顔の絶えない楽しい暮らしを目指して日々利用者様のお手伝いをさせてもらっています。認知症になっても、できることを手伝ってもらいながら、馴染みつつある利用者様の仲間たちと本当の家族のように安心して暮らしていけたらと思い、日々お仕事をさせてもらっています。お出かけに力を入れていたので、現在の状況は本当に残念ですが、屋内でも楽しめることを提案して利用者様に楽しんでいただけるように努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活をする 笑顔の絶えない楽しい暮らし 地域に根ざした暮らしを理念とし玄関や各フロアに掲げて、職員一同、意識を持ちお仕事をさせてもらっています	理念は玄関やフロア入口などに掲示されており、月一度のミーティングなどで内容に沿った支援がなされているか、振り返ることがある。職員も理念を理解し、利用者それぞれがその人らしく生活できるように節度はもちながら家族のように接し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方には消防訓練や運営推進委員会に参加していただき、日々の散歩を通じて地域の方との交流を図っています	自治会に加入し、回覧板を回してもらっている。地域の情報は推進会議などの場を通して民生委員から知らせてもらっている。散歩などで近隣住民と面識を持ち、施設の存在を周知してもらっている。ボランティアの訪問も多いが、現在はコロナ禍にあって遠慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が迷われている時はお声をかけをし、助けられるように努めています また逆に地域の方に私どもが認知症の方をお連れしていると大変ねと声をかけて下さることもあります		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況や問題等を相談し、サービスの向上に努めています また地域の方より情報をいただき、勉強させてもらっています。2月以降は新型コロナウイルス感染症予防のため会議は実施しておりません	運営推進会議は二カ月に一度開催されていたが、コロナ禍にあっては施設側での取り組みを手紙や電話で参加メンバーに伝えている。通常であれば防災訓練の場としたり、地域情報を得、施設の近況報告をするなど、会議を活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは相談させてもらい、助けてもらっています また市町村の研修等には極力参加させていただき、勉強させてもらっています	介護制度や保険の変更などでわからないことがあればすぐに区の窓口へ相談している。コロナ禍においても施設としての対応について相談した。また市の主催する研修には参加している。介護フェアの見学や、事業所連絡会の参加もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠のないケアを目指し、玄関、フロアの一部は職員間で相談し、今年より解錠させてもらっています また、2か月に一度、身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに努めております	マニュアルがあり、年に一度、勉強会を開き、また二カ月ごとに話し合いを行っている。利用者の状況状態に応じ、安全を考慮し、現在は玄関やフロア入口を施錠している。状態が落ちたら職員が話し合い、施錠をやめることにしている。研修で刻み食の提供の仕方についてやり方を間違くと虐待にあたる学び、他の職員と話し合い共有した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報共有に努めて、日頃より利用者様の様子や傷などを注意してみるように心がけております マニュアルをいつでも見られるところに置いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや研修会において学ぶ機会を設けています また身寄りのない方は身元引き受けの機関を紹介し、支援させていただいています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時にひととおりご説明させていただき、理解していただいております また改定時には文書にて同意をいただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、面会時に様子を伺い運営に反映できるように努めています	意見箱はあるが、投函されたことはない。面会時に直接家族と話し意見や要望を聞くようにしている。現在は面会に制限があり、その分、電話及びメール、LINEなどで施設と家族とのやり取りを行っており、もっと畑を活用してもらいたい、という要望をもらい、庭に畑を取り入れる計画をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話等により、意見を聞けるように心がけています また外部の専門機関に相談し、反映できるように努めています	職員は管理者に支援における意見などを話しやすい環境にある。玄関の施錠についても、理由を伝えて開錠は難しいのではと話し合ってくる。待遇についても意見を伝えやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の実績や努力により反映できるように心がけており、職場環境・条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握できるよう、努めたい。できたら研修参加を促したいが現在のところは行ってはならず、介護の本をフロアにおいてみて個々に学習を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会に参加させてもらい、勉強会や親睦会を通じて同業者の交流を定期的に行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接事前にお会いし、困っていることや要望を伺っています また特にサービス導入時は信頼関係がとれるまでいつも以上に注意し、対応させていただきます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも事前にお会いし、困っていることや要望を伺い、安心していただけるように、信頼していただけるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって一番必要なサービスを見極められるように努めており、場合によっては、違うサービスもご紹介させてもらっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという立場ではなく、できることやできないことを互いに助け合い、感謝や敬意を表し、よりよい関係を築いていけるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にしながら、たまには周りで一緒に会話等に入らせていただき、支援させてもらっています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いを大切にしながら馴染みの方がいつでも来ていただけるような、環境づくりに努めています	普段であれば、墓参や、外食、馴染みの場所への遠足などを行っている。また年賀状や手紙のやりとりは仲介している。思い出の場所や実家へ行きたいという思いがあれば、家族に思いを伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見守りながら、時には間に入りながら、お互いにより良い間柄になれるように努めさせてもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても病院等にいらっしゃる場合は会いに行き、ご本人が孤立されないように努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活のため、伺えない場合もありますが、できるだけ、ご本人の意向に添えるように心がけています また本人本位に考えられるように努めています	入所前の生活歴等は本人や家族からしっかり聞き取り、意向の把握に繋げている。普段からコミュニケーションを頻回に図り、会話や表情等でその時々を思いを汲み取っている。職員は話やすい雰囲気を作り、意向を引き出しよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の利用者様との会話やご家族に伺い今までの経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報共有に努め、小さいことも見逃さず共有できるように努めています また色々試しながらご本人の現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロア会議にて個々の利用者様のケアについて話し合っています またご家族にも近況をお話しし、意見等を伺いケアプランに反映させてもらっています	計画書作成時は利用者や家族の意向に添って作成し、3か月毎に見直し現況に合った計画書となっている。意向の変化や身体状態の変化があれば都度見直しも行っている。計画書更新時に家族の同意をもらっている。医療面では看護師に相談しチームとして支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも普段より申し送りやノートにて情報共有し、日々のケアに役立っている また見直しが必要な場合は常時見直しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族ひとり一人のニーズに応えられるよう、努めています また言いやすい環境づくりに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の趣味を大切にしていづまでも続けていただけるよう、いづまでも自信を持っていただけるようにご家族と協力して安心して楽しく暮らしていただけるような支援に努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医等伺い必要なときはかかりつけ医にかかっていたできるように支援しています	入居時にホーム協力医に移行しているが、持病等の専門医や皮膚科、眼科、歯科等は個別に通院している。家族対応ができない場合等は受診体制を整え、受診結果や薬の処方等は主治医や専門医、家族との連携を図っている。協力医は二週間毎の訪問で診察を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に来てもらい、フロア毎にノートを作り、日々の利用者様の様子を相談していますその後必要あれば処置等を行っています。また職員にも看護師がおり、問題があれば相談しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にお見舞いやカンファレンスに参加してその後の情報共有に努めています また色々相談にのってもらい、より良い関係づくりに努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては日々職員間にて話し合っています。早い段階ではご家族には相談していませんが、必要な時期に相談させてもらっています	重度化や看取りの際は利用者や家族の意向を最優先し、主治医や看護師、家族と話し合いを行い支援の方針を決めている。利用者や家族の希望があれば看取りを行う体制を整えている。急変時は主治医や看護師と相談し、状態に即した支援を行っている。緊急時マニュアルを整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて学ぶ機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施しています。うち一回は地域の方や消防の方にもご協力いただき、普段より信頼関係が築けるように努めています	夜間想定火災、地震、水害の避難訓練を実施している。毎年10月に推進会議時に災害訓練を行うが今年は見送っている。訓練実施後は職員間で話し合い、防災意識を高め、改善に努めている。備蓄は三日分の水と食料を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、冗談が言える方には言ってみたり、律儀な方には崩さず丁寧な言葉を心がける等、基本的には一緒ですが、個別に言葉かけや対応を変えこともあります	個人情報に関わる取り扱いや話は、利用者の前では慎む様にして注意している。利用者各々に信頼関係を深め、心地の良い話し方や対応に心掛けている。排泄失敗時は、羞恥心に配慮して接する様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境づくりに努めています また意思を伝えにくい方には答えやすい質問をするなど、なるべく自己決定できるように働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にとって居心地のよい空間で暮らせるように職員の都合ではなく、利用者様の都合で暮らしていただけるようにお手伝いさせていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が気に入って下さるような身だしなみの援助を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家栽培の野菜を中心に利用者様が喜んでいただけるメニューを利用者様やご家族に伺ったりして、メニューや外食に取り入れています お手伝いも積極的に手伝っていただいています	献立、調理、食材の調達は施設が行い、利用者の希望を献立やおやつづくりに反映している。畑で採れた季節の野菜が食卓に並び、食の安全や関心に繋げている。簡単な調理や配下膳、片付け等は利用者が協力し合い行っている。外食ができなくなったが、テイクアウトを利用する等、利用者の希望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量は毎日記録し、水分摂取量も必要があるときは記録しています 個々に色々な食事形態や嗜好にもなるべく対応させていただいており、摂取量が少ない方には色々な工夫で召し上がっていただいております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的にはご本人で口腔ケアをしていただいております できないところをお手伝いさせていただいております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄していただけるよう支援させてもらっています	排泄チェック表を活用し、利用者個人の排泄リズムに合わせて声掛けや誘導している。夜間帯も同様に、個人のパターンに合わせて誘導やポータブルの使用や、定時オムツ交換をする等支援している。失禁が減ったり、紙パンツから布パンツへと自立に向けて支援もできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてNHKのテレビ体操やラジオ体操等を取り入れています また散歩も真夏、真冬を避けそれ以外は散歩をさせてもらっており、筋力の維持に努めています 個別にも訓練を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな方にはタイミングや声かけ等を工夫して入っていただいております またお好きな方は時間に余裕があるときには優先して入ってもらっています	菖蒲湯やゆず湯等、入浴を楽しめる様取り組んでいる。必ず職員が付き添い、安全面に配慮している。一日置きに入浴し、体調不良時に清拭や足浴を行っている。入浴を拒否される際は声掛けに工夫して、気持ちに寄り添い無理強くない入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり体調や気分によってお好きなように自由に生活していただいております またメリハリのある生活も大切にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の利用者様の薬について共有できるよう心がけています また常日頃より利用者様の変化には注意し観察させてもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしてもらえるように努めています また、散歩や外食等で気分転換を図り、笑顔の絶えない楽しい暮らしを目指しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い方にはご家族の協力も得て、外泊をしていただいたり、外出もコロナ前までは行っていました	午前の散歩や近隣の畑へ行く事が日課となっている。午後の空いた時間にも希望者には散歩できるよう努めている。月2回近隣神社への参拝も恒例である。外食、外出レクや利用者の希望の外出は、コロナの影響で控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご家族と相談させてもらい、決めさせてもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	代筆やポストへの投函を支援しています また電話の支援もさせてもらっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるよう、季節に合わせた貼り絵や作品を作ってもらっています また一日に何回かは窓を明け、その日の気候を感じていただけるようにしています 庭にはハナミズキや金木犀等季節の木々が植えられています	フロア毎にソファやダイニングテーブルの配置を変え、利用者目線で生活同線が確保され広々と明るい共用空間となっている。利用者が製作した季節の作品やイベントの写真を飾り、和やかな雰囲気を出している。掃除が行き届き清潔感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこの空間や3人用のソファ等それぞれに過ごしていただけるように工夫させてもらっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご説明をして使い慣れた物を持ってきていただいています また心地よい清潔な空間が保てるように心がけています	家具類や仏壇等、馴染みの物を持ち込み、懐かしい写真や作品などを飾り、利用者が落ち着ける居室となっている。喚起や空調、温度管理は職員が行い、掃除は利用者と一緒にやっている。衛生管理が行き届き、過ごしやすい空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには大きく文字を書いたり、好きな物を貼ったりして分かり易くなるよう努めています		